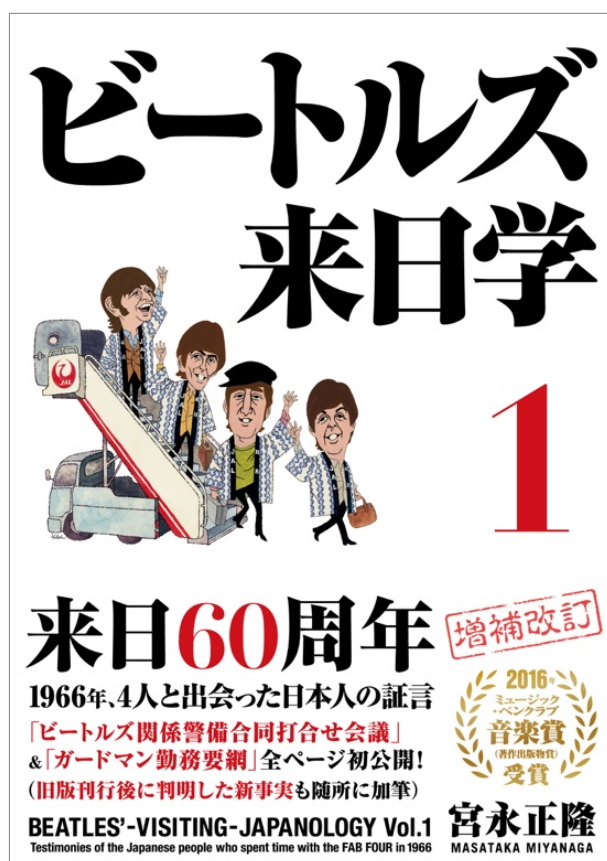


各 位

2026年5月20日
株式会社リットーミュージック

ビートルズ来日 60周年！1966年、4人と接した日本人の証言
『ビートルズ来日学』が初公開資料・新事実も加えた「増補・新装版」として発売
『ビートルズ来日学 2』（全ページ初書籍化）も今秋発売決定



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『ビートルズ来日学 1』を、2026年5月20日に発売しました。

本書は、1966年初夏ビートルズ来日時に彼らと接したさまざまな立場の人々のインタビュー集。登場するのは、4人が日本に向かう日航機にあえて同乗した会社員から、武道館公演をTV放送した日本テレビのディレクター、移動に使われたキャデラックの運転手、滞在した東京ヒルトンホテルのスタッフ、さらにはビートルズが購入した古美術店スタッフなど。膨大な知識に裏打ちされた評論活動が「ビートルズ大学」として浸透している音楽評論家・宮永正隆が、4人の素の姿を浮き彫りにし、ビートルズが日本にいた5日間の細部を次々と明らかにしていきます。

原本は雑誌『レコード・コレクターズ』の長期連載をまとめる形で2016年に刊行され、「ミュージック・ペンクラブ音楽賞・著作出版物賞」を受賞するなど業界内外で高い評価を得た『ビートルズ来日学』（DU BOOKS）。今回の新装版では、旧版では冒頭の2ページのみ公開していた「ビ

ートルズ関係警備合同打合せ会議」&「ガードマン勤務要綱」書類を全23ページ初公開。その後の新事実も【2026年追記】として随所に加筆しています。

書名に『1』とあるとおり、全ページ初書籍化となる『ビートルズ来日学 2』の発売も決定（今秋発売予定）！ 2冊合わせて「ビートルズ来日60周年」を盛り上げます！



2-2：黒川氏に微笑むポール。顔丸マークがはっきり写っている（撮影：黒川貞蔵）

11 黒川貞蔵 日本航空空客乗務員



2-1：アンカレッジ空港で、黒川氏はサングラスをかけたポールの顔。車内にはブライアン・エプスタインも見える（撮影：黒川貞蔵）

第1部 自動機でもにもに満ちた人々 10



1966年6月29日午前4時過ぎ、羽田空港から東京ビルトンホテル前に到着したビートルズ。乗りかけた太田による国会議事堂のシルエットが美しい。『週刊朝日』1968年7月15日号にも掲載された名写真だ（提供：朝日新聞社）

125 肥田勲 協同企画

——映像で見る、羽田に到着に際したビートルズは、あの車の方に乗っていますね。
 肥田 あれ、あれ、あれがワザあんなよ。これ誰にもどにも乗ったことなつたんだけど、羽田ならホテルだけビートルズに乗った羽田は、カンリン切れるんです。メーター見たら「目撃したいかなってやばいんです。」「これ途中で止まっちゃったから大変だ」って、後が水島さんに相談して、「じゃあビートルズに乗せよう」ってなつたのよ。
 ——どの時点で相談したんですか。
 肥田 黒川水島さんを連れて羽田に向かっている最中。もう半分なつてもんじゃなんだもん。下まで下つてんだもん。だから、あのときだけビートルズ。あとは、ビートルズが日本にいる間じゅう、全部黒川。
 ——言われてみれば種かまうです。じゃあ、本当は一番いい車は黒川さんですね。
 肥田 黒川は全部機が運転したの。黒川は機も運転しない。
 ——黒川は、他の日は機料的に大丈夫だったんですか（笑）。
 肥田 うん、大丈夫だった。
 ——黒川、お知恵のときは機料にして用意してたんじゃないかって、うっかり。

肥田 いやいや、羽田に機料にしてたよ。でも黒川はあの車かたの機料機料を準備して運んでたんだよ。あんなでかい車って、機料機料したのだから、コンテナなんでも機料機料しないんだから、でかいでかい（笑）。カンリン機料機料に入れて20リッター入らんだけ、まさかリッター800リッター走らないなんて知らなかったの。
 ——練習してたら知らぬ間に減っちゃつてたの。
 肥田 うん（笑）。
 羽田空港からビートルズがあのビートルズのスマイトをデザインする前に乗って来た機料機料を知っている我々には、もうそれ以外イメージしづらい状態である。そのくらいしつかりハマっているのだ。それは「近代史」で「若々しい」何かを象徴するものとして多くの人の無意識の領域に刻み付けているから他ならない。想像してほしい。もし、大物政治家的な機料機料をデザインの方に乗つていたら、「ビートルズ来日」がまたく違つた印象になつては、ずいぶん、神の機料機料と機料機料して何と云おう。

126 第2部 きまぎまな機料機料をとおして 124

第2部 さまざまな職業をとおして

日本テレビ・ディレクター／協同企画・ビートルズの運転手／カメラマン／日本テレビ音楽班・フロアマネージャー／武道館ビートルズ楽屋でお茶くみを務めた女性

第3部 東京ヒルトンホテルのスタッフたち

宴会場エンジニア／10階担当ハウスマン／10階担当ハウスキーパー

第4部 ビートルズの日本みやげ

テラー山形屋スタッフ／朝日美術スタッフたち

■PROFILE

宮永正隆（みやながまさたか）

音楽評論家。1960年生まれ。早稲田大学法学部卒。

ポール・マッカートニー、ヨーコ・オノ、ショーン・レノン、ジャイルズ・マーティンらの単独取材、ジョン・レノン・ミュージアム展示品解説執筆、英国EMI公式書籍『The Complete BEATLES Recording Sessions』日本版監修者として原書にないデータも加筆し原著者から賞賛を獲得した。知識と愛情に裏打ちされた骨太なビートルズ論は国際的に評価も高く、その評論活動は「ビートルズ大学」の名称で浸透し、メディア出演・執筆・講演などで発信されている。

2016年『ビートルズ来日学』（旧版）はミュージック・ペンクラブ音楽賞（著作出版物賞）。桑田佳祐氏も、自身のビートルズ賛歌「月光の聖者達（ミスター・ムーンライト）」は「ビートルズ来日学を愛読する中で生まれた」と公言する。

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp